

秋田県文化財調査報告書第428集

根下戸道下遺跡(第2次)

—— 一般国道7号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ ——



秋田県文化財調査報告書第428集

根下戸道下遺跡(第2次)

2007・10

秋田県教育委員会

2007・10

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

根^ね下^げ戸^ど道^{みち}下^{した}遺跡(第2次)

—— 一般国道7号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ ——

2007・10

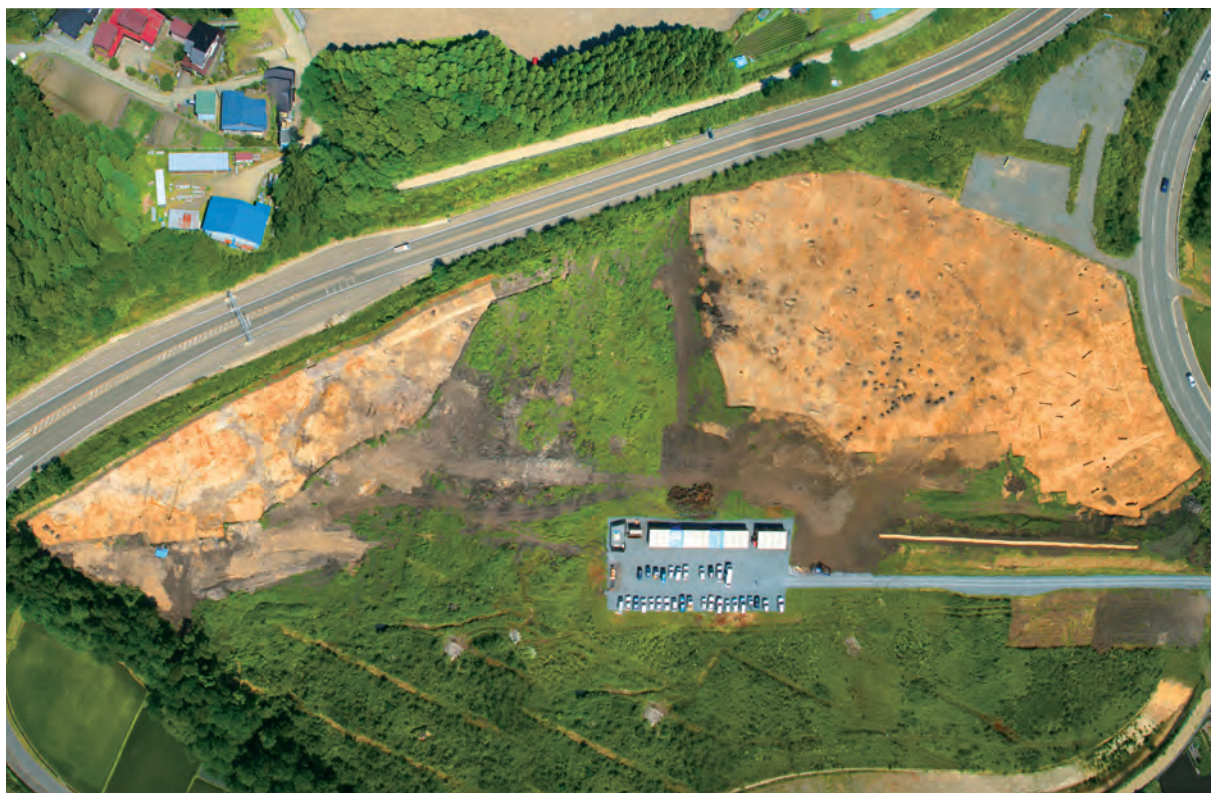
秋田県教育委員会



1 遺跡遠景（南東→）



2 1997年発掘調査時の遺跡遠景（南西→）



1 遺跡全景（上が北）



2 S N86・88 焼土遺構現況（東→）



1 基本土層K D05 断面 (南西→)



2 基本土層K D05 断面 白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm) 層と十和田 a 火山灰 (To-a) 層 (南→)



1 貝殼文土器



2 磨製有孔石製品

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、地域が活発に交流・連携する秋田をめざす開発事業の根幹を成すものであります。本教育委員会では、これらの地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、一般国道7号大館西道路建設工事に先立って、平成18年度に大館市において実施した根下戸道下遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査の結果、縄文時代の陥し穴が検出され、縄文時代に狩猟場として利用されていたことが分かりました。また、縄文時代早期を中心とする遺物も見つかり、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所、大館市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成19年10月

秋田県教育委員会
教育長 根 岸 均

例 言

- 1 本書は、一般国道7号大館西道路建設事業に伴い、平成18(2006)年度に発掘調査された秋田県大館市根下戸新町69-1外に所在する根下戸道下遺跡の発掘調査報告書である。本遺跡は平成9年度に大館西道路本線部分について、発掘調査が行われており、今回の発掘調査対象地は大館南IC建設予定地の北側に当たる。本報告書では、平成9年度発掘調査を第1次調査、今回報告する平成18年度発掘調査を第2次調査とする。根下戸道下遺跡第2次発掘調査成果については、既にその一部が『秋田県埋蔵文化財センター年報25(平成18年度)』および発掘調査報告会資料などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。
- 2 本書第2図は、大館市の1/2,500『都市計画図』(昭和63年作成)を、第3図は、国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所提供の1/1,000『大館南IC平面図』を、第4図は、国土地理院発行の1/25,000地形図『大館』(平成15年発行)をもとに作成した。
- 3 遺跡基本層序と遺構土層図中の土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖2005年版』を使用した。
- 4 発掘調査及び整理作業における以下の作業を下記の業者に委託した。
水準測量および方眼杭設置・遺構計測作業：技苑コンサル株式会社
遺跡掘削管理業務：株式会社笹谷建設
遺跡空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル
遺物写真撮影：みどり光学社株式会社
- 5 以下の自然科学分析は、下記の業者に委託した。なお、本報告書ではその分析結果報告を第5章に掲載した。
放射性炭素年代測定：株式会社パレオ・ラボ
樹種同定：株式会社パレオ・ラボ
種実同定：株式会社パレオ・ラボ
花粉分析：株式会社パレオ・ラボ
プラント・オパール分析：株式会社パレオ・ラボ
珪藻分析：株式会社パレオ・ラボ
テフラ分析：株式会社パレオ・ラボ
- 6 本報告書の執筆は、第3章第1節を山田祐子、第5章を除くその他を築瀬圭二が行い、編集は築瀬が行った。

7 本書を作成するにあたり、次の方々から御指導・御助言を賜った。記して感謝申し上げます。

〔五十音順・敬称略〕

板橋範芳 嶋影壮憲 高橋保雄 富樫泰時 藤沼邦彦

凡 例

1 本報告書に掲載した平面図（遺構実測図）の方位は、世界測地系平面直角座標第X系による座標北を示す。原点（MA50）における座標北と磁北との偏角は西偏 $8^{\circ} 10'$ である。本文および巻末の報告書抄録記載の経緯度は世界測地系に基づく。

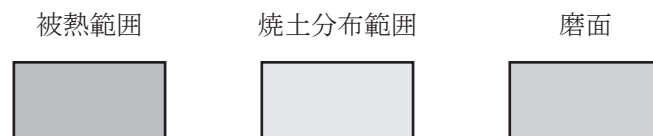
2 遺構については検出順にその種類を示す略記号と通し番号を付したが、後に遺構ではないと判断したものは欠番とした。遺構に使用した略記号は以下のとおりである。

SK：土坑 SKT：陥し穴 SKP：柱穴様ピット SN：焼土遺構

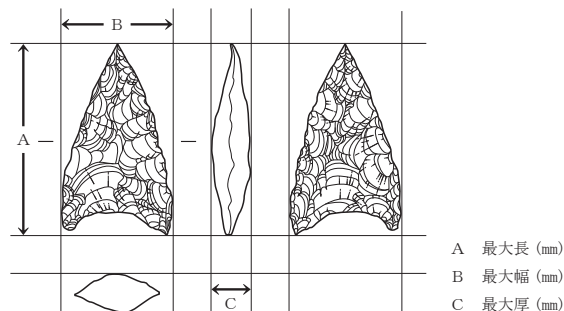
3 遺構内の遺物出土状況は、土器を●RP、石器を▲RQ、礫を■Sで表記した。

4 遺構実測図および遺物実測図には、それぞれスケールを付して、縮尺を表示した。

5 挿図中に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外については、個々の頁に示した。



6 石器の計測部位は下記の通りである。計測値の単位は長さ・幅・厚さがmm、重量がgである。



目 次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経過	1
第2節	調査要項	2
第2章	遺跡の環境	3
第1節	遺跡の位置と立地	3
第2節	歴史的環境	5
第3章	発掘調査の概要	9
第1節	遺跡の概観	9
第2節	調査の方法	10
1	発掘調査	10
2	室内整理	10
第3節	調査の経過	11
第4章	調査の記録	13
第1節	基本層序	13
第2節	検出遺構と出土遺物	23
1	東調査区	23
(1)	土坑	23
(2)	陥し穴	28
(3)	焼土遺構	41
2	西調査区	43
(1)	土坑	43
(2)	焼土遺構	44
(3)	柱穴様ピット	46
3	出土遺物	47
第5章	自然科学分析	90
第1節	放射性炭素年代測定	90
第2節	樹種同定	94
第3節	種実同定	97
第4節	花粉分析	98
第5節	プラント・オパール分析	105
第6節	珪藻分析	108
第7節	テフラ分析	111
第6章	まとめ	115

図版

報告書抄録

挿図目次

第1図	遺跡位置図	3	第37図	SKP93・94・96・97・98・99	73
第2図	台地上の過去の調査範囲	4	第38図	出土土器(1)	74
第3図	路線計画図と調査範囲	4	第39図	出土土器(2)	75
第4図	根下戸道下遺跡と周辺遺跡図	6	第40図	出土土器(3)	76
第5図	遺跡周辺地形図・基本土層断面位置図	14	第41図	出土石器類(1)	77
第6図	基本土層(1)	15	第42図	出土石器類(2)	78
第7図	基本土層(2)	16	第43図	出土石器類(3)	79
第8図	基本土層(3)	17	第44図	出土石器類(4)	80
第9図	基本土層(4)	18	第45図	出土石器類(5)	81
第10図	遺構配置図(東調査区)	19・20	第46図	出土石器類(6)	82
第11図	遺構配置図(西調査区)	21・22	第47図	出土石器類(7)	83
第12図	土坑集中区図 SK15・16	48	第48図	出土石器類(8)	84
第13図	SK17・19・41・42・43	49	第49図	出土石器類(9)	85
第14図	SK44・45・46・50・75	50	第50図	出土石器類(10)	86
第15図	SK52・55・71・76	51	第51図	出土銭貨	89
第16図	SKT09・11	52	第52図	暦年較正結果	93
第17図	SKT14・18・20	53	第53図	出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真(1)	96
第18図	SKT23・24	54	第54図	出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真(2)	97
第19図	SKT25・48・60	55	第55図	窪地の土層断面(C-D)と試料採取層準(■)	98
第20図	SKT61・62	56	第56図	陥し穴および土坑の土層断面(A-B) と試料採取層準(■)	98
第21図	SKT05・33	57	第57図	窪地試料の主要花粉化石分布図	101
第22図	SKT36・64	58	第58図	SKT69、SKT70、SK75の主要花粉化石分布図	101
第23図	SKT06・07	59	第59図	根下戸道下遺跡の花粉化石	104
第24図	SKT13・21	60	第60図	窪地(SN88焼土遺構) のプラント・オパール分布図	106
第25図	SKT22・26	61	第61図	SKT69、SKT70、SK75 のプラント・オパール分布図	106
第26図	SKT27・30	62	第62図	根下戸道下遺跡のプラント・オパール	107
第27図	SKT35・39	63	第63図	珪藻化石分布図	109
第28図	SKT47・51	64	第64図	珪藻化石顕微鏡写真	110
第29図	SKT53・56	65	第65図	根下戸道下遺跡の堆積物の特徴	112
第30図	SKT65・67	66	第66図	火山ガラス屈折率測定結果	112
第31図	SKT69・70	67	第67図	火山ガラス顕微鏡写真	114
第32図	SN01・02・03・04・08	68	第68図	陥し穴分布図	117・118
第33図	SN34・37・73・77	69	第69図	秋田県内陥し穴検出遺跡分布図	124
第34図	SK106 SN81・82・85	70			
第35図	SN86・88	71			
第36図	SN91・102・103	72			

表目次

第1表	根下戸道下遺跡周辺の遺跡一覧	7	第10表	産出花粉化石一覧表	99
第2表	柱穴様ピット一覧表	73	第11表	試料1g当たりのプラント・オパール個数	105
第3表	出土土器一覧表	87	第12表	珪藻化石産出表	109
第4表	出土石器類一覧表(1)	88	第13表	堆積物の鉱物分析結果一覧	112
第5表	出土石器類一覧表(2)	89	第14表	陥し穴観察一覧表	116
第6表	出土銭貨一覧表	89	第15表	秋田県内陥し穴検出遺跡一覧表(1)	121
第7表	測定試料および処理	91	第16表	秋田県内陥し穴検出遺跡一覧表(2)	122
第8表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	91	第17表	秋田県内陥し穴検出遺跡一覧表(3)	123
第9表	出土炭化材の樹種同定結果	95			

図版目次

巻頭図版1	1 遺跡遠景 (南東→)		7 SKT25・SKT26 陥し穴重複断面 (南西→)
	2 1997年発掘調査時の遺跡遠景 (南西→)		8 SKT26 陥し穴断面 (南西→)
巻頭図版2	1 遺跡全景 (上が北)	図版6	1 SKT25 陥し穴完掘 (南西→)
	2 SN86・88 焼土遺構現況 (東→)		2 SKT26 (手前)・SKT25 (奥) 陥し穴完掘 (南西→)
巻頭図版3	1 基本土層 KD05断面 (南西→)		3 SKT05 陥し穴確認 (南西→)
	2 基本土層 KD05断面 白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm)層と十和田a火山灰(To-a)層 (南→)		4 SKT05 陥し穴断面 (南西→)
巻頭図版4	1 貝殻文土器		5 SKT05 陥し穴完掘 (南西→)
	2 磨製有孔石製品		6 SKT05 陥し穴杭穴完掘 (南西→)
図版1	1 SN04 焼土遺構確認 (北東→)		7 SKT33 陥し穴断面 (南東→)
	2 SN91・102・103 焼土遺構群現況 (南西→)	図版7	1 SKT07 陥し穴確認 (北西→)
	3 SN86・88 焼土遺構と西調査区 (南東→)		2 SKT07 陥し穴完掘 (北西→)
	4 西調査区沢状地形 (東→)		3 SKT13 陥し穴断面 (北→)
	5 基本土層 KD07 付近沢状地形 (北東→)		4 SKT13 陥し穴完掘 (北→)
	6 SN88 土壌試料採集作業状況 (北西→)		5 SKT21 陥し穴確認 (西→)
	7 磨製有孔石製品出土状況 (北東→)		6 SKT21 陥し穴断面 (西→)
	8 貝殻文土器出土状況 (西→)		7 SKT21 陥し穴完掘 (西→)
図版2	1 円形の陥し穴群 (上が北)		8 SKT22 陥し穴確認 (北西→)
	2 溝状の陥し穴群 (上が北)	図版8	1 SKT22 陥し穴断面 (西→)
図版3	1 SK17 (右)・SK45 (左) 土坑確認 (南→)		2 SKT22 陥し穴完掘 (西→)
	2 SK17 土坑断面 (南東→)		3 SKT27 陥し穴断面 (西→)
	3 SK17 土坑遺物出土状況 (南東→)		4 SKT27 陥し穴完掘 (西→)
	4 SK45 土坑断面と遺物出土状況 (南東→)		5 SKT47 陥し穴断面 (西→)
	5 SK45 土坑遺物出土状況 (南東→)		6 SKT47 陥し穴完掘 (西→)
	6 SK17 (右)・SK45 (左) 土坑完掘 (南→)		7 SKT65 陥し穴断面 (西→)
	7 SKT11 陥し穴断面 (南→)		8 SKT65 陥し穴完掘 (西→)
	8 SKT11 陥し穴完掘 (南→)	図版9	1 SKT67 陥し穴断面 (西→)
図版4	1 SKT18 陥し穴確認 (南東→)		2 SKT67 陥し穴完掘 (西→)
	2 SKT18 陥し穴断面 (南東→)		3 SKT69 陥し穴確認 (北西→)
	3 SKT18 陥し穴杭穴確認 (南東→)		4 SKT69 陥し穴断面 (北西→)
	4 SKT18 陥し穴完掘 (南東→)		5 SKT69 陥し穴完掘 (北西→)
	5 SKT20 陥し穴断面 (南東→)		6 SKT11 陥し穴調査作業 (北西→)
	6 SKT20 陥し穴完掘 (南東→)		7 SKT36 陥し穴調査作業 (南西→)
	7 SKT23 陥し穴確認 (南西→)		8 SKT56 陥し穴調査作業 (南→)
	8 SKT23 陥し穴断面 (南西→)	図版10	出土土器 (1)
図版5	1 SKT23 陥し穴完掘 (南西→)	図版11	出土土器 (2)
	2 SKT24 陥し穴断面 (西→)	図版12	出土石器類 (1)
	3 SKT24 陥し穴完掘 (西→)	図版13	出土石器類 (2)
	4 SKT23 (手前)・SKT24 (奥) 陥し穴 (北→)	図版14	出土石器類 (3)
	5 SKT25・SKT26 陥し穴確認 (南西→)	図版15	出土石器類 (4)
	6 SKT25・SKT26 陥し穴現況 (南西→)	図版16	出土石器類 (5) 出土銭貨

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

大館西道路は、大館市櫃崎地内から商人留地内に至る市内を縦貫する延長8.8kmの道路である。^(註1)国土交通省が一般国道7号の自動車専用道路として整備を進めており、日本海沿岸東北自動車道の一部を構成する。市街地における渋滞緩和や災害時等の迂回路の確保と県内の高速交通ネットワークの形成など、地域の文化と経済交流の活性化を目的として計画された路線で、当初計画では根下戸新町地内を起点とし、商人留地内を終点とする6.2kmとしていたが、鷹巣大館道路と連結するために櫃崎地内までの区間2.6kmが延伸になった。平成10年12月には根下戸新町地内から釈迦内地内の国道7号までの4.6kmが部分供用された。将来的には琴丘能代道路や日本海沿岸東北自動車道大館～小坂間（新直轄方式）の整備と併せて、東北縦貫自動車道、大館能代空港、能代港と直結する高規格幹線道路網の一翼を担うことが期待される。

根下戸新町地内を起点として商人留地内を終点とする本線部分については、平成8年度の分布調査によって根下戸道下遺跡を含む3遺跡が工事に係ることが確認され、根下戸道下遺跡については、同年度の範囲確認調査^(註2)を経て、秋田県埋蔵文化財センターが平成9年5月26日から11月6日まで発掘調査^(註3)（第1次調査）を実施した。

その後、平成15年度には、根下戸新町地内の大館南IC建設予定地から南南西方向に米代川を越えて、主要地方道比内田代線に至る大館西道路19工区建設工事予定地について、平成15年5月8日付国東整能調第13号により、国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所長から、秋田県教育委員会教育長に埋蔵文化財の遺跡分布状況等の調査依頼があった。秋田県教育委員会は、平成15年11月26・29日、12月9日、平成17年7月13・14日、8月4日に建設工事予定地内の試掘調査^(註4)^(註5)を実施した。調査の結果、大館南IC建設予定地（第3図）で土坑・焼土遺構・石器剥片などを検出し、これらは、平成9年に発掘調査された根下戸道下遺跡^(註6)（第1次調査）の南東側の広がりであると判断した。秋田県教育委員会は、平成18年8月19日付教生-1125により、試掘調査結果を国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所長に報告するとともに、今後の取り扱いについて協議した。協議の結果、大館南IC予定地北側30,000㎡を対象に根下戸道下遺跡の確認調査を平成17年11月16日から12月9日まで秋田県埋蔵文化財センターが実施した。調査の結果、陥し穴・焼土遺構・土器片・石器等を検出し、秋田県教育委員会は、平成18年2月3日付教生-1969により、国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所長に工事区内の東西2か所合計12,650㎡（東調査区7,820㎡、西調査区4,830㎡）について発掘調査が必要であることを報告した。^(註7)その後の国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所と秋田県教育委員会による協議を経て、秋田県埋蔵文化財センターが平成18年5月22日から8月10日まで根下戸道下遺跡の第2次調査として発掘調査を実施することとなった。

第1章 はじめに

- 註1 国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所 『大館西道路』 2004(平成16)年
- 註2 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第270集 1997(平成9)年
- 註3 秋田県教育委員会 『根下戸道下遺跡－大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』
秋田県文化財調査報告書第297集 2000(平成12)年
- 註4 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第380集 2004(平成16)年
- 註5 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第413集 2006(平成18)年
- 註6 註5と同じ
- 註7 註5と同じ

第2節 調査要項 (所属等は調査時のものである)

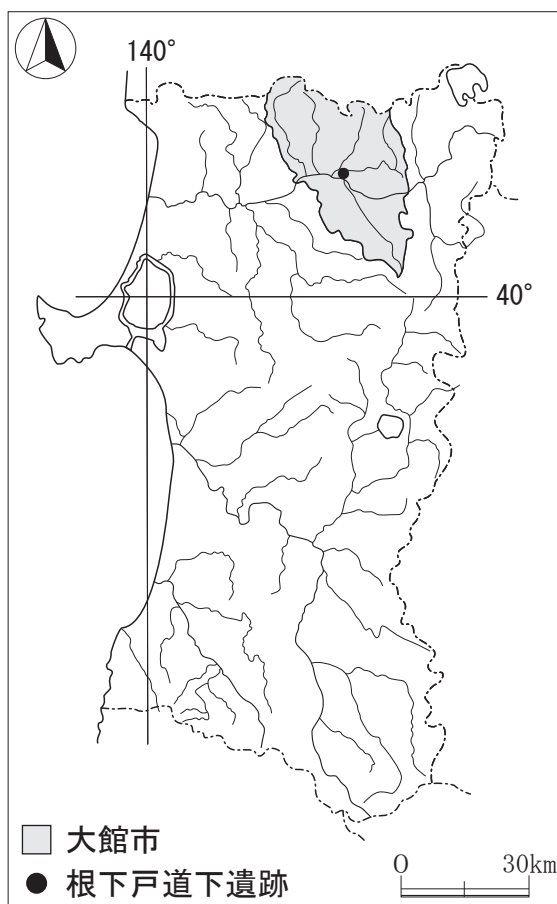
遺 跡 名	根下戸道下遺跡(遺跡略号: 2NGDMS)
遺 跡 所 在 地	秋田県大館市根下戸新町69-1外
調 査 期 間	平成18(2006)年5月22日～8月10日
調 査 目 的	一般国道7号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査
調 査 面 積	12,650㎡
調 査 主 体 者	秋田県教育委員会
調 査 担 当 者	築瀬圭二(秋田県埋蔵文化財センター北調査課 学芸主事) 村上義直(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 文化財主事) 山田祐子(秋田県埋蔵文化財センター北調査課 文化財主事)
総 務 担 当 者	袴田幸樹(秋田県埋蔵文化財センター主任)
調 査 協 力 機 関	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所 大館市教育委員会

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

根下戸道下遺跡が所在する大館市は、秋田県の北東部、北緯 $40^{\circ}02' \sim 29'$ 、東経 $140^{\circ}19' \sim 44'$ の地域を占め、北を青森県平川市・南津軽郡大鰐町・弘前市・西津軽郡西目屋村、北西を藤里町、西～南を北秋田市、東を鹿角市、北東を小坂町と接している（第1図）。面積は 913.7km^2 で秋田県では第4位の広さである。大館市の地形は、大館盆地をとりまくように出羽山地の一部である白神山地が北西側に、高森山地が東側に、摩当山脈が南西側にあり、地塊構造がよく発達している。山麓沿いには、沖積扇状地が多く分布している。大館盆地は、県北第一の主要河川の米代川とその支流群によって大きく5つに分類できる河岸段丘が発達し、台地群を形成している。さらに河川に沿って低い台地を埋め尽くすように沖積低地が広がっている。

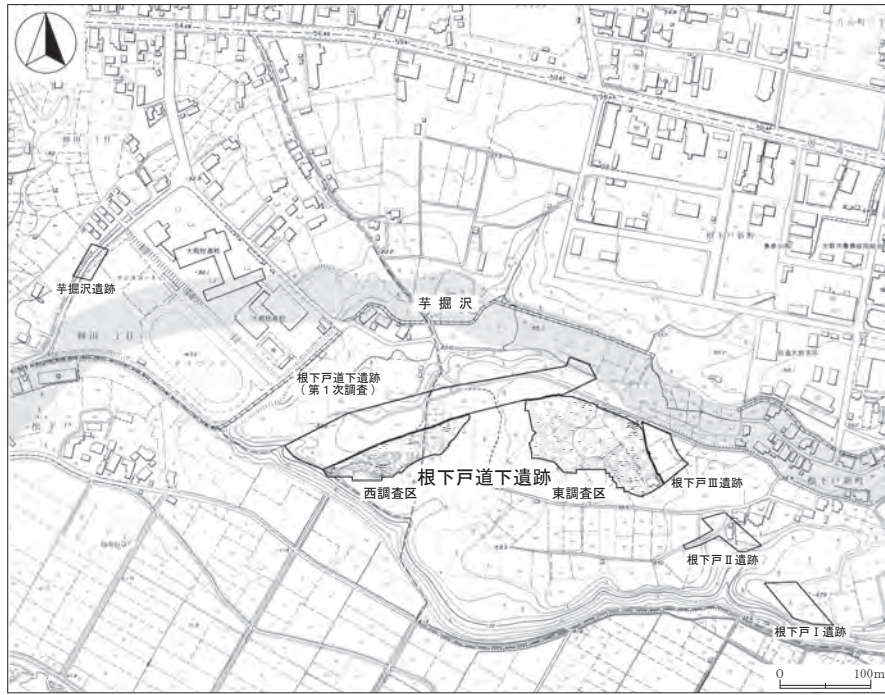
根下戸道下遺跡は、およそ北緯 $40^{\circ}16'16''$ 、東経 $140^{\circ}31'49''$ にあり、大館市の中心部からやや南西、JR花輪線東大館駅の西2.3km、秋田県立大館桂高等学校の南東側に位置する。遺跡は、米代川とその支流長木川に挟まれた三角形を呈する西向きの巨大な舌状台地上（第四紀更新世に形成された第二段丘）に立地する。^{（註1）}その米代川と長木川は遺跡の西、約1km付近で合流する。この台地の南側斜面は複数の支谷によって開析された複雑な地形である。台地上面の標高は54～58m前後、南側の段丘崖下の米代川沖積低地との比高は14m前後である。表層地質は十和田火山起源の鳥越軽石質火山灰（十和田八戸火砕流）層とその第2次堆積物で構成されている。遺跡の北側には、その堆積物が浸食されてできた幅50mに満たない芋掘沢が東から西に向かって開け、台地の縁辺付近で南西方向に開口していた。^{（註2）}しかし、近年の道路や住宅、大館桂高等学校の建設等による周辺の開発によって、地形は大きく変化し、現在、芋掘沢は一部に低湿地を残すが、その姿をとどめていない。第2図は、かつての芋掘沢の流路（推定）とともに同一台地上の遺跡の調査範囲を示している。



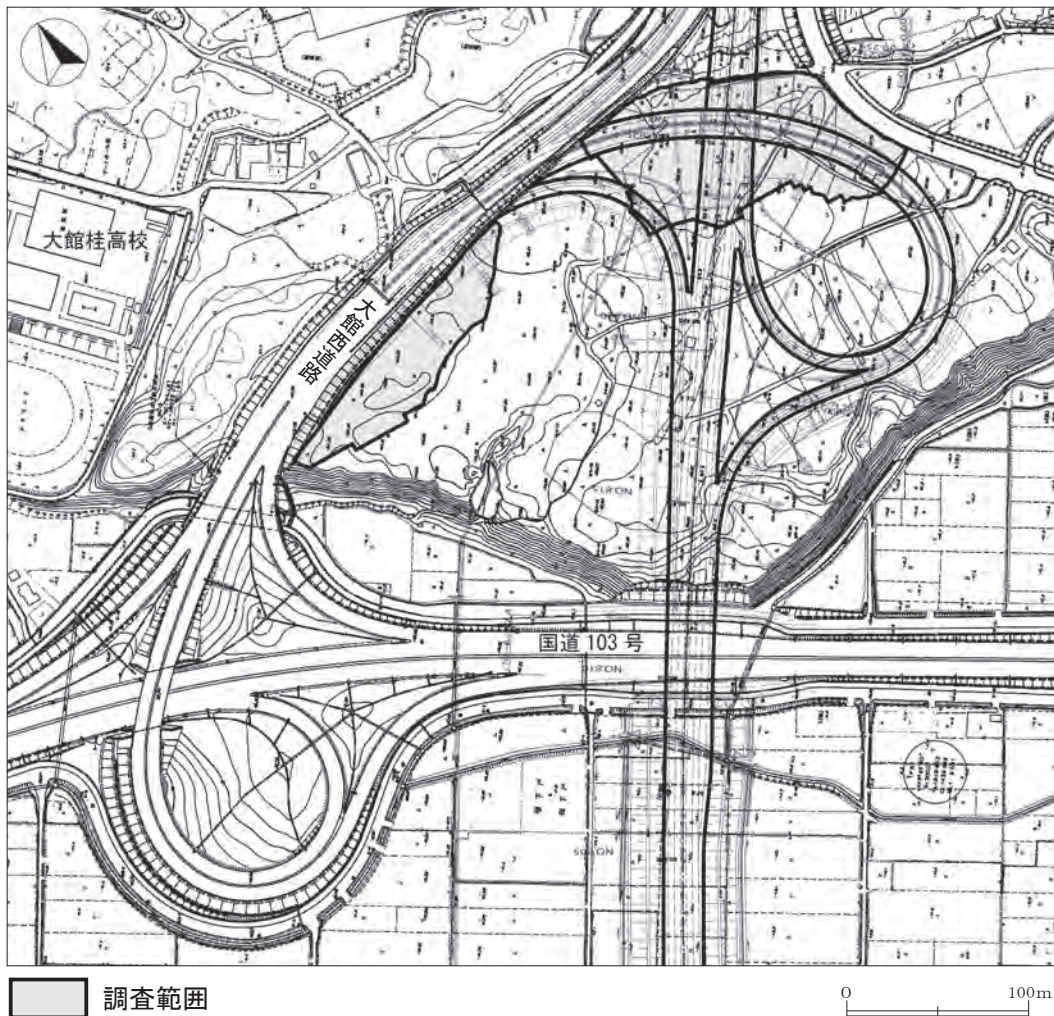
第1図 遺跡位置図

註1 大館市史編さん委員会 『大館市史 第1巻』 1979(昭和54)年

註2 大館市教育委員会 『芋掘沢遺跡発掘調査報告書』 1972(昭和47)年



第2図 台地上の過去の調査範囲



第3図 路線計画図と調査範囲

第2節 歴史的環境

2005(平成17)年に旧田代町・旧比内町と旧大館市とが合併して誕生した新「大館市」では、現在275か所の遺跡が確認され、そのうち、旧大館市には162か所の遺跡が分布する^(註1)。その多くは大館盆地内に分布する河岸段丘面にある。第4図の根下戸道下遺跡と周辺遺跡位置図は、大館盆地とその盆地を取りまく米代川、長木川・下内川の沖積低地に発達した大館市市街地を中心とした東西約5.8km、南北約8.2kmの地域を示している。ここでは、第4図に記載された遺跡を中心に、旧石器時代から平安時代までを概観する。同一台地上の遺跡(第2図)については、第3章第1節「遺跡の概観」で後述する。

旧石器時代の遺跡としては、松木高館平遺跡(12)があり、段丘の赤土から植林作業中に偶然5個の大型の石刃が発見された。大館市内では唯一である。この時期の遺跡・遺物の発見は他の時期に比べ極端に少ないが、その多くは数次にわたる十和田火山の火砕流によって埋没した可能性がある。

縄文時代は早期からの遺跡が発掘調査されている。早期の遺跡としては、狼穴Ⅲ(23)、坂下Ⅱ(26)、野崎(27)、鳶ヶ長根Ⅳ^(註2)、寒沢^(註3)などの遺跡があり、貝殻文を施した土器片が出土している。坂下Ⅱ遺跡では県下で発見例の少ない竪穴住居跡を2軒検出した。前期の遺跡としては、餅田屋敷添(6)、松木(11)、狼穴(21)、狼穴Ⅱ(22)、福館橋桁野(32)、萩ノ台Ⅱ(44)、池内(45)、山館上ノ山^(註4)などの遺跡がある。萩ノ台Ⅱ遺跡では台地斜面の「捨て場」から大量の円筒下層式土器とともに大木式土器片も出土している。池内遺跡では前期中葉～末葉にかけての円筒下層式期の大集落跡が調査され、大量の土器・石器以外に豊富な種類の動植物遺存体が出土している。山館上ノ山遺跡では竪穴住居跡のほか、2つの鋒形石器はじめ大量の遺物が出土している。狼穴、萩ノ台Ⅱ、池内、山館上ノ山遺跡では岩偶が出土している。中期の遺跡としては、福館橋桁野、萩ノ台Ⅱ、上野(46)、餌釣館(47)などの遺跡がある。福館橋桁野遺跡では竪穴住居跡が1軒、上野遺跡では4軒、餌釣館跡では12軒検出されている。萩ノ台Ⅱ遺跡からは円筒上層a～e式土器が出土している。後期の遺跡としては、萩ノ台Ⅱ、餌釣館、寒沢、諏訪台^(註5)などの遺跡がある。萩ノ台Ⅱ遺跡では十腰内Ⅰ・Ⅱ式土器とともに翡翠の大珠3点が出土している。餌釣館跡では竪穴住居跡が1軒、寒沢遺跡では7軒、諏訪台遺跡では2軒検出されている。晩期の遺跡としては、太平山(38)、餌釣館などの遺跡がある。餌釣館跡では竪穴住居跡1軒とフラスコ状土坑を検出している。

続縄文(弥生)時代の遺跡としては、片山館コ(7)、ニッ森Ⅱ(30)、諏訪台などの遺跡があり、片山館コ遺跡では後北式土器片が出土し、ニッ森Ⅱ遺跡では土坑墓を検出している。諏訪台遺跡では直径7～8m以上の大形竪穴住居跡が6軒検出されている。平安時代の遺跡としては、下内川支流乱川流域の台地上の縁に釈迦内中台Ⅰ(19)、釈迦内中台Ⅱ(20)、狼穴、狼穴Ⅱ、狼穴Ⅲ、狼穴Ⅳ、坂下Ⅱ、野崎などの遺跡がある。狼穴Ⅲ遺跡では竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡3棟、狼穴Ⅳ遺跡では竪穴住居跡19軒、坂下Ⅱ遺跡では竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡2棟など多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出し、集落跡であったことが確認されている。また、米代川右岸の台地上の縁には扇田道下(41)、上野、池内、餌釣館などの遺跡がある。上野遺跡では谷に火山灰が堆積した後で竪穴住居跡が構築され、その竪穴住居跡のかまど周辺から土師器とともに擦文土器が出土している。池内遺跡では32軒、餌釣館遺跡では13軒の竪穴住居跡が検出されている。



第4図 根下戸道下遺跡と周辺遺跡図

第1表 根下戸道下遺跡周辺の遺跡一覧

番号	遺跡地図番号	遺跡名	時代	文献	番号	遺跡地図番号	遺跡名	時代	文献
1	204-4-126	根下戸道下	縄文	1	25	204-4-156	坂下Ⅰ	(土坑)	13
2	204-4-133	根下戸Ⅲ	縄文・平安	2	26	204-4-157	坂下Ⅱ	縄文・平安	15
3	204-4-132	根下戸Ⅱ	縄文	2	27	204-4-153	野崎	縄文・平安	14
4	204-4-131	根下戸Ⅰ	縄文	2	28	204-4-151	谷地中	縄文	16
5	204-4-125	芋掘沢	縄文	3・4	29	204-4-138	二ッ森	縄文・弥生	
6	204-4-43	餅田屋敷添	縄文		30	204-4-134	二ッ森Ⅱ	縄文・古代	13
7	204-4-44	片山館コ	続縄文・中世	4～7	31	204-4-139	福館Ⅱ	古代	
8	204-4-34	沼館	中世	6	32	204-4-13	福館橋桁野	縄文・平安	4
9	204-4-33	下堤沢	古代		33	204-4-45	土飛山館	平安・中世	6・12
10	204-4-32	鍛冶屋敷	縄文・古代		34	204-4-46	大館城	中世	6
11	204-4-31	松木	縄文		35	204-4-47	金坂	古代・中世	6
12	204-4-30	松木高館平	旧石器	8	36	204-4-48	青嵐亭跡	(庭園跡)	
13	204-4-29	高館	中世	6	37	204-4-62	稲荷中岱	古代・中世	
14	204-4-28	大山板碑	年号なし		38	204-4-63	太平山	縄文	
15	204-4-27	松峰	古代・中世		39	204-4-141	小館町	縄文	
16	204-4-21	花岡城・神山	古代・中世	6	40	204-4-64	小館花館	古代・中世	6
17	204-4-25	釈迦内古館	中世		41	204-4-65	扇田道下	縄文	
18	204-4-26	釈迦内館	平安・中世	6	42	204-4-140	扇田道上	古代	
19	204-4-23	釈迦内中台Ⅰ	平安	9～12	43	204-4-66	萩ノ台Ⅰ	縄文	
20	204-4-24	釈迦内中台Ⅱ	平安		44	204-4-67	萩ノ台Ⅱ	縄文	17
21	204-4-22	狼穴	縄文・平安	8	45	204-4-68	池内	縄文・平安	4・18
22	204-4-135	狼穴Ⅱ	縄文・平安	13	46	204-4-145	上野	縄文・弥生・平安	19
23	204-4-136	狼穴Ⅲ	平安	14	47	204-4-69	餌釣館	縄文・平安・中世	20・21
24	204-4-137	狼穴Ⅳ	縄文・平安	15					

※表中の遺跡地図番号は、『秋田県遺跡地図(北秋田地区版)』に記載された登録番号である。

- 註1 秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図(北秋田地区版)』 2006(平成18)年
- 註2 秋田県教育委員会 『国道103号線バイパス工事関係遺跡発掘調査報告』
秋田県文化財調査報告書第84集 1981(昭和56)年
- 註3 秋田県教育委員会 『曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－寒沢遺跡－』
秋田県文化財調査報告書第254集 1995(平成7)年
- 註4 秋田県教育委員会 『国道103号大館南バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－上ノ山Ⅰ
遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡－』 秋田県文化財調査報告書第173集 1988(昭和63)年
- 秋田県教育委員会 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅱ
－上ノ山Ⅱ遺跡第2次調査－』 秋田県文化財調査報告書第193集 1990(平成2)年
- 秋田県教育委員会 『国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅳ
－上ノ山Ⅰ遺跡第2次調査－』 秋田県文化財調査報告書第211集 1991(平成3)年
- 註5 秋田県教育委員会 『諏訪台C遺跡発掘調査報告書－釈迦内地区農免農道整備事業－』
秋田県文化財調査報告書第196集 1990(平成2)年

第2章 遺跡の環境

第1表文献（表中の番号は文献番号に対応する。）

- 1 秋田県教育委員会 『根下戸道下遺跡－大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』
秋田県文化財調査報告書第297集 2000(平成12)年
- 2 秋田県教育委員会 『根下戸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡－大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』
秋田県文化財調査報告書第330集 2001(平成13)年
- 3 大館市教育委員会 『芋掘沢遺跡発掘調査報告書』 1972(昭和47)年
- 4 大館市史編さん委員会 『大館市史 第1巻』 1979(昭和54)年
- 5 大館市史編さん委員会 『館コ発掘調査報告書』 1973・1974(昭和48・49)年
- 6 秋田県教育委員会 『秋田県の中世城館』 1981(昭和56)年
- 7 秋田県教育委員会 『片山館コ遺跡発掘調査報告書－一般国道7号大館西道路建設工事に係る埋蔵文化財
発掘調査－』 秋田県文化財調査報告書第203集 1990(平成2)年
- 8 大館市史編さん委員会 『大館の歴史』 1992(平成4)年
- 9 秋田県教育委員会 『平成13年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』 2002(平成14)年
- 10 秋田県教育委員会 『平成14年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』 2003(平成15)年
- 11 秋田県教育委員会 『平成15年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』 2004(平成16)年
- 12 秋田県教育委員会 『平成17年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』 2006(平成18)年
- 13 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第342集 2002(平成14)年
- 14 秋田県教育委員会 『平成18年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』 2007(平成19)年
- 15 秋田県教育委員会 『狼穴Ⅳ遺跡－一般国道7号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－』
秋田県文化財調査報告書第391集 2005(平成17)年
- 16 秋田県教育委員会 『田ノ沢山遺跡・谷地中遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財
発掘調査報告書ⅩⅩⅢ－』 秋田県文化財調査報告書第404集 2005(平成17)年
- 17 秋田県教育委員会 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－萩ノ台Ⅱ遺跡－』
秋田県文化財調査報告書第236集 1993(平成5)年
- 18 秋田県教育委員会 『池内遺跡－国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅷ－遺構編』
秋田県文化財調査報告書第268集 1997(平成9)年
- 19 秋田県教育委員会 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅵ－上野遺跡－』
秋田県文化財調査報告書第222集 1992(平成4)年
- 20 秋田県教育委員会 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅴ－山王岱遺跡－』
秋田県文化財調査報告書第221集 1992(平成4)年
- 21 大館市教育委員会 『山王台遺跡発掘調査報告書』 1990(平成2)年

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

根下戸道下遺跡は、前述したように米代川とその支流長木川に挟まれた大館盆地の西端部に位置する台地（段丘）上に立地している。標高は約54～58m、ほぼ平坦な地形であり、段丘崖下南側の米代川沿いに広がる沖積低地の水田との比高は14m前後ある。また、遺跡の段丘北東斜面は、現在は開発が進み、地形上では読み取り難くなっているが、東から西に向かって伸びる小浸食谷（通称芋掘沢）に連なる。この沢は幅50mに満たない狭い沢で、沢底を細い水流が流れていた。いわば降雨時の集水路と低湿地を兼ねていた^(註1)。今年度の調査区域（12,650㎡）は、遺跡確認調査時に遺構や遺物の分布が確認された台地北側の2か所の東調査区（7,820㎡）、西調査区（4,830㎡）である。東調査区の東側は畑地、西側が杉林、西調査区は雑木林であった。調査区の現況は伐採された径10～20cmの木材や枝葉が残存し、また、全域で生活・産業廃棄物等が散乱していた。

本遺跡では、1997（平成9）年に今年度の調査区と隣接する段丘北辺部の発掘調査（11,400㎡）が行われた^(註2)。調査の結果、遺構は縄文時代早期の竪穴住居跡1軒・時期不明の竪穴住居跡3軒、陥し穴10基等が検出され、遺物は縄文時代早期の貝殻文土器のほか前期・後期・晩期の土器・石器が出土した。また、本遺跡と同一台地上には、芋掘沢遺跡、東調査区の東側と隣接する根下戸Ⅲ遺跡のほか根下戸Ⅰ遺跡、根下戸Ⅱ遺跡がある。芋掘沢遺跡は1970（昭和45）年に大館桂高等学校の建設予定地の一部について学術調査が行われた^(註3)。調査の結果、縄文時代前期後葉の円筒下層d式土器を利用した蓋石のある土器棺墓のほか早期から中期までの土器が出土した。根下戸Ⅰ、根下戸Ⅱ、根下戸Ⅲ遺跡は2000（平成12）年に発掘調査（4,000㎡）が行われた^(註4)。調査の結果、根下戸Ⅰ遺跡からは遺物集中地点が2か所、根下戸Ⅱ遺跡からは陥し穴が6基、根下戸Ⅲ遺跡からは陥し穴が8基と古代の排滓場が4か所検出された。これらのことから、この台地は縄文早期から平安時代まで性格を変えながら断続的に利用されていたことが判明している。

今年度の東調査区では、平面形状によって3種類に分類できる陥し穴が34基検出された。調査区内の分布傾向は、北端から北東～東側に集中している。西調査区では、3か所から比較的規模の大きい焼土遺構群が検出されている。東西の調査区で遺構の検出状況に違いがある。遺物については両調査区からごく少量ずつではあるが、縄文時代早期中葉から弥生時代後期までの土器・石器、平安時代の土師器、江戸時代の銭貨が出土している。

註1 大館市教育委員会 『芋掘沢遺跡発掘調査報告書』 1972（昭和47）年

註2 秋田県教育委員会 『根下戸道下遺跡－大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』
秋田県文化財調査報告書第297集 2000（平成12）年

註3 註1と同じ

註4 秋田県教育委員会 『根下戸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡－大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』
秋田県文化財調査報告書第330集 2001（平成13）年

第2節 調査の方法

1 発掘調査

調査は確認調査結果に基づき表土の除去を重機によって行った。遺構・遺物が検出されなければ地山漸移層上面まで除去した。また、表土下黒ボク層から焼土遺構が検出された区域では当該層上面まで除去した。表土下黒ボク層・地山漸移層の粗掘り、遺構精査は移植ベラ・ジョレン等を使用してすべて人力で行った。排土運搬はベルトコンベアーを使用し、排土置き場は調査区の南側の隣接地を利用した。

調査はグリッド法で行った。対象範囲全域に方眼杭を打設するため、東調査区内に任意の1点を選定して、これをグリッドの原点MA50（世界測地系平面直角座標第X系 X=30,141 Y=-25,785）の基準杭とした。基準杭の座標北方向を南北基線（磁北は8° 10′ 西偏）、これに直交するラインを東西基線とし、両基線を延長して当該区内に4m×4mメッシュのグリッドを組み、その交点に方眼杭を打設した。方眼の原点を通る南北線をMA、同じく東西線を50とし、南北線はアルファベットの符号を西に向かって昇順となるよう、東西線は数字の符号を北に向かって昇順となるよう、それぞれ付した。なお、南北線に付した2文字のアルファベットはA～Tまでの20文字の繰り返しとなっている。この方眼によって画する4m四方の区画は、その南東隅を通る南北線の符号と東西線の符号とを組み合わせ、MA50グリッドのように呼ぶこととした。調査対象全域にグリッドを設定することにより、計画的な調査と同時に遺構の平面的な位置の把握に努めた。なお、根下戸道下遺跡（第1次調査）、根下戸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の発掘調査グリッドとは共通しない。^(註1)

遺構は、検出順に01からの通し番号を付して遺構種別を表す記号と組み合わせで呼称した。また、最終的に遺構でないと判断されたものについては欠番とした。遺構の掘削は、原則として半截または十字に土層ベルトを残し、2分割法、4分割法による精査を行った。作図は、すべてトータル・ステーションによる機械測量で行い、平面図及び土層断面図は、原則として20分の1の縮尺で作成した。遺物の取り上げについては、基本的に遺構外遺物には出土グリッド・層位・出土年月日を、遺構内遺物には出土遺構名・遺構内層位・出土年月日をラベルに記入し、それぞれポリ袋に入れて取り上げた。なお遺構内およびその周辺の遺物については、トータル・ステーションで出土位置の計測を行った。発掘調査時の写真撮影は、遺構の検出状況・断ち割り状況・完掘状況の順で撮影し、適宜、遺物の出土状況、遺構細部の拡大撮影などを加えた。また、広範囲の撮影、俯瞰状況での撮影にはローリング・タワーを使用した。さらに、調査完了時の全景撮影としてラジコン・ヘリコプターを使用しての航空写真撮影を行い、撮影成果は35mm判のモノクロ・リバーサル、6×6判のリバーサルフィルムとJPEGデータでCD-ROMに保存している。写真撮影は、基本的に35mm判を使用し、フィルムはモノクロ・リバーサルを併用し、デジタルカメラでの撮影も行った。

2 室内整理

各遺構は、現場で作成した図を第1原図とし、これを基に平面図と断面図を組み合わせた図を第2原図とした。第2原図をスキャニングし、Adobe社「Photoshop CS2」・Adobe社「Illustrator CS2」を使用し、トレース・レイアウトまでの作業を行った。

遺物は、洗浄・注記後、報告書に記載する遺物の選別を行い、その後基本的に1/1で実測図を作成し、報告書に記載するにあたっては適宜縮尺を変えトレースした。図にはスケールを入れて示している。また、土器片などは拓影図の作成を合わせて行い、これらの作業後、デジタル一眼レフカメラによる写真撮影を行った。また、一部の遺物写真撮影（カラーリバーサル4×5判）は委託した。

註1 根下戸道下遺跡第1次調査では、グリッド原点MA50（日本測地系X=29,885.6952 Y=-25,671.8963）、南北基線磁北（座標北から8°00′西偏）、根下戸I・II・III遺跡調査では、グリッド原点MA50（日本測地系X=29,754.269 Y=-25,319.685）、南北基線座標北である。

第3節 調査の経過

発掘調査は、平成18年5月22日～8月10日まで実施した。なお、調査区の本調査に先立ち、4月24日よりバックホー、キャリアダンプによる表土除去、5月8日より東調査区（以下東区）のグリッド杭打設を開始している。各週ごとの調査経過については、以下のとおりである。

【第1週】5月22日～5月26日

遺跡内の条件整備作業。東区の東側と中央部の遺構検出作業に着手。東側で陥し穴や土坑、中央部では焼土遺構を複数検出。特に中央部の焼土遺構と黒ボク土層から遺物が多数出土。24日、西調査区（以下西区）のグリッド杭打設作業が終了。

【第2週】5月29日～6月2日

31日、ベルトコンベアの設定作業を始め、発電機周辺の養生などの環境整備の他は基本的に遺構の検出・精査作業を行う。東区の遺構検出・精査作業を継続。南東側に位置する深さ80cm程の円筒形の土坑上面から縄文時代早期後葉～前期前葉の土器が出土。遺構外から早期中葉の貝殻条痕文のある土器や後期と考えられる土器が出土。31日、「アカデミー in大館」の会員25名が小林課長引率のもと、遺跡見学のため来跡。1日、技苑コンサルによる遺構計測業務開始。

【第3週】6月5日～6月9日

東区の遺構検出・精査作業を継続。北東側から様々な形状の土坑を検出、一部から土器片が出土。北側の境界付近にかけて直径110cm、深さ100cm程で底部に杭穴を伴った円筒形の土坑を数基検出。遺構外から基部に孔が施され、先端部が丸く両側縁が刃部になった断面が両凸レンズ形の長さ約23cmの磨製の石製品が出土。

【第4週】6月12日～6月16日

東区の遺構検出・精査作業を継続。西側・南側の遺構分布は希薄。東区の大半の検出作業が終了。焼土遺構が複数見つかった南側では、縄文時代前期前葉の土器片や石器・剥片などの遺物が集中して出土。石器製作址、住居跡などの可能性を考慮し、周辺を精査中。

【第5週】6月19日～6月23日

東区の東側のベルトコンベア16台を西区に移動、配置。東区で遺構精査を継続。西区の遺構検出作業を開始。東区に遺跡の案内板を設置し、発掘調査の進捗状況をパネルで掲示。

【第6週】6月26日～6月29日

第3章 発掘調査の概要

東区の調査は拡張部分を残し、ほぼ終了。西区は現在遺構検出・精査中。先週設置したベルトコンベアが遺構精査の障害となるため移動し再設置。東区の再精査を行い、陥し穴に伴う追い込み柵の痕跡の検出を試みる。現状では明確に追い込み柵跡と言える遺構は見つからず。今後現場の状況と図面とを併せて探していく。西区では火山灰層下の黒ボク土層中から複数の焼土遺構を検出。周辺の精査により、これらの焼土遺構の性格を検討中。

【第7週】 7月3日～7月7日

東区では追い込み柵の遺構検出のために柱穴の位置を図面に記入、地形を考慮しながら陥し穴との位置関係で追い込み柵の有無について検討する。西区の沢状地形の付近に焼土遺構を検出。沢状地形の3か所にベルトを残し、焼土遺構との関連を含めて精査を進める。沢状地形のグライ化した層から石器がまばらに出土。4日、おおだて新報記者取材のため来跡。5日、北鹿新聞記者取材のため来跡。

【第8週】 7月10日～7月14日

10～13日に東区東側の拡張部分の重機による表土除去を行い、遺構検出作業を行う。東区の拡張部分では3基の遺構を検出。西区は複数検出されている焼土遺構の精査と、沢状の窪地の掘削、遺構検出作業を進める。14日、藤沼邦彦弘前大学人文学部教授、高橋保雄新潟県埋蔵文化財事業団専門調査員来跡。

【第9週】 7月18日～7月21日

東区の拡張部分の南側の陥し穴2基と北側の比較的浅い土坑の遺構精査を行う。西区は複数検出している焼土遺構の精査と沢状の窪地の掘削、遺構検出作業を継続。沢状の地形に位置する焼土は、0.5mmメッシュのふるいによる遺物選別作業を行う。調査区全区の粗掘りを終了。

【第10週】 7月24日～7月28日

東区の拡張部分の陥し穴2基と土坑1基の精査と樹木切り株周辺の遺物回収作業を行う。西区では焼土遺構の精査、沢状の窪地の写真撮影、空撮に備えての清掃を行った。遺構が構築された時期の年代特定と環境復元、焼土遺構の性格特定を目的として、土壌サンプルの採取を行う。24日、大館市教育委員会嶋影壮憲氏来跡。25日、秋田魁新報社大館支局記者取材のため来跡。27・28日、パレオ・ラボによる西区の焼土遺構周辺の土壌サンプル採取。

【第11週】 7月31日～8月5日

東区では、樹木切り株周辺の遺物回収作業を継続。遺跡見学会に備えて東側調査区の清掃や駐車場の養生を行う。西区の焼土遺構の性格特定を目的として、焼土とその前後の層の土を水洗篩い分けによるサンプル採取を行う。1日、富樫泰時元秋田県立博物館長来跡。3日、中国甘粛省の交流員2名が来跡。4日、朝日新聞社記者取材のため来跡。5日、見学会実施。午前の参加人数66名、午後36名、総計102名。秋田魁新報・北鹿新聞記者取材のため来跡。

【第12週】 8月7日～8月10日

空中写真撮影に備えて調査区の清掃や樹木切り株周辺の遺物回収作業、撤収作業を行う。西区では焼土遺構と窪地の関係を断面で観察、図面・写真で記録をとり、発掘調査を終了。8日、シン技術コンサルによる空中写真撮影。9日、午前10時、文化財保護室立会のもと、国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所へ現場引き渡しについて現地協議。10日、技苑コンサルによる遺構計測終了、全調査区の発掘調査完了。